

(仮訳)

2008 年 4 月 1 日

ジョイント・フォーラムが「信用リスク移転」に関するペーパーを公表

ジョイント・フォーラムは本日、「信用リスク移転(2005年から2007年にかけての動向)」と題する市中協議ペーパーを公表した。2005年3月においても、ジョイント・フォーラムは「信用リスク移転(CRT)」と題するペーパーを公表しているが、今回のペーパーは、信用リスク移転市場の継続的拡大と急速な革新を背景に、2007年3月に金融安定化フォーラム(以下FSF)より、2005年公表ペーパーの改訂検討依頼を受けて作成されたものである。

ジョイント・フォーラムは、2007年夏に始まった市場混乱の発生以前から本ペーパーの改訂作業を進めていたが、市場混乱に関するFSFの取り組みを支援する上で、本ペーパーはジョイント・フォーラムからの重要な貢献となり、2008年3月のFSF会合に提出するため、本ペーパー作成スケジュールは前倒しされた。

ジョイント・フォーラムの議長及び米国通貨監督庁長官であるジョン・C・デュガン(John C. Dugan)氏は、本日、以下のように発言した。「本ペーパーでは、信用リスク移転のために広く用いられるようになった2つの金融商品、CDS(クレジット・デフォルト・スワップ)とCDO(債務担保証券)の過去2年間の動向に焦点が当てられている。本ペーパーの中で、サブプライム・モーゲージ担保証券のトランシェを原資産としたCDOについて分析している部分は、最近、主要金融機関がこのような商品から大規模な損失を被っただけに、特に注目に値する。」また、同氏は「本ペーパーは、昨今、信用市場に生じた混乱の原因の一部を理解するうえで、重要かつ利用しやすい資料である。また本ペーパーは、今もって有効性を失っていない2005年公表ペーパーの提言を基盤として、幾つかの新たな提言も行なっている。」と付言した。

ジョイント・フォーラムは、母体である各監督委員会と協力のうえ、本ペーパー及び2005年公表ペーパーにおける提言に関して、それらがどの程度の有効性を持って実施されているかの検証を検討している。金融機関と監督当局が、

所要の変更を加えるためのそれぞれのプロセスに必要な時間を勘案し、1年後を目途に検証作業を実施する予定である。

本文書は、国際決済銀行、IOSCO (<http://www.iosco.org>) および IAIS (<http://www.iaisweb.org>) の各ウェブサイト上で閲覧することができる。本文書に対するコメントは、2008年5月16日までに電子メールにてジョイント・フォーラム事務局 (baselcommittee@bis.org) に送付されたい。

ジョイント・フォーラムは、バーゼル銀行監督委員会 (BCBS)、証券監督者国際機構 (IOSCO) および保険監督者国際機構 (IAIS) により 1996年に設立され、金融コングロマリットの監督をはじめ銀行・証券・保険部門に共通する問題に取り組んでいる。